

# INTERNATIONAL CENTER

Newsletter Vol. 81



'10 NOV ~ '11 JAN

台灣語學研修團 ( 暑さに負けず、台湾満喫! ) → 詳細 p4 ~ p5



# Welcome to KIT

2010年10月28日(木)・生協学生食堂



平成22年度後期・新入生歓迎会が13名の留学生を迎えて、盛大に挙行された。新規留学生の内訳は、前期に母国へ帰国した学生の入替わりで、ポーランド3名、モンゴル2名、台湾2名、韓国1名に加え、新規でアメリカ1名、台湾2名、中国2名(博士後期課程)である。当日は、生協の学生食堂の一角を貸切り、鮎田学長をはじめ高橋理事・副学長、田牧理事・副学長、田村副学長の執行部の列席に加え、在籍留学生、チューター、教職員など総勢100人が互いに交流を深めた。歓迎会では、鮎田学長より留学生への歓迎の意が伝えられ、大学の対留学生への期待の高さがうかがわれた。その後、オードブルを囲みながら、約2時間の歓談がなされ、途中、新規留学生の自己紹介が行われ、皆彼らの言葉に聞き入っていた。後期の留学生の受入れにより、本学における留学生数も91名になり、初めて90名を超え、今後益々日本人学生との交流や研究での活躍が期待される。



【2010年11月28日・北見市端野町農業振興センター】

体験学習の一環として、端野駅隣に位置する「端野町農業振興センター」を借りて、パン・うどん作りが行われた。今回の参加者は、「中級日本語」を履修している9名の特別聴講生と、アシスタント2名、教員1名の12名であった。体験学習の前には、日本語でパンとうどんの作り方や道具の名前、材料名などを学習し、当日に備えた。当日は、北見市商工会端野支所事務局次長の斎藤正仁さんと指導担当の渡辺まゆみさんの協力の下行われた。事前学習を行っていたこともあり、留学生は渡辺先生の指示を的確に理解し、それぞれが創作のパン作りに取り組んでいた。焼きあがったパンは風味もよく、その場で我慢しきれずに食べていた学生もいた。また、うどんも腰があり、歯ごたえのある触感に仕上げることができていた。今回、留学生は体験学習を通して日本語を習得できたほか、担当者との交流を通して意思の疎通ができ、多くの収穫があったと感じられた。



Let's

そ

ば

打

ち

体験学習第2弾として、うどんに對抗して「そば打ち体験」が行われた。今年も「鮭の安さん(常呂町)」の店主である黒川安之さんに依頼し、実現することができた。そば粉は北海道産100%のそば粉を使い、水回し、ねり、くくり、へそ出しの一連の作業が終わると、伸ばしに入り、その後均等に、そして、リズミカルに切る作業に移った。その光景は、さすがプロ。留学生もそれぞれの作業を実際に体験してみたが、黒川さんにははるかに及ばず、プロのすごさをまざまざと見せつけられた。その後、全員で打ち立ての新そばを堪能したわけであるが、風味といい、腰といい、全てにおいて満足するものであった。これぞ、そばの力かな。

級生、今回は「論文履修して日本語」という特別講座を実施した。この講座は、留学生の多くが参加し、講師は黒川安之さん。内容は、論文の書き方、参考文献の調べ方、レポートの作成方法などについて、具体的なアドバイスをいただいた。また、質疑応答の時間も設けられ、参加者は積極的に質問を投げかけた。この講座は、留学生にとって非常に有益なものであり、今後の学習に大いに役立つであろう。参加した留学生からは、「とても勉強になった」、「黒川さんの経験が参考になった」といった声が多く聞かれた。今後もこのような講座を開催し、留学生の日本語学習をサポートしていきたい。



文献の探索方法／入手方法講習会

【2010年12月・図書館】  
 2010年12月17日(水)から12月18日(木)までの2日間、本学図書館にて「文献の探索方法」講習会を開催した。内容は「Dream II」(CINJ)、「電子ジャーナル」(JIL)の40分の計90分で、各自の都合に合わせて日時が指定可能である。

カーリングでエキサイティング〜!!



【2010年12月18日(土) 常呂町カーリングホール】

北見市常呂町といえば、「カーリング」メッカであり、冬季オリンピックカーリング日本代表で活躍した本橋麻里さん(NTLS)を輩出したのも常呂町である。ここには、日本初の屋内専用カーリングホールがあり、今年も北見市主催のカーリング交流に、本学から17名の留学生の他、在北外国人約30名が参加した。午前中は基礎練習を行い、午後からは8チームに分かれて、トーナメント形式のゲームを行った。ゲームでは、円の真ん中にストーンを置いたり、上手に相手のストーンを円の外にはじき出したりといったナイスショットもあり、白熱した戦いが繰り広げられた。そして、1位〜3位のチームには賞品が授与され、最後は参加者全員で記念撮影を行い、カーリングの醍醐味を味わう形となった。



10月Cアワー【2010年10月13日(水)】

後期に来日した13名の新規留学生の初参加の下、今回は「ゲームで友達の輪を広げよう」という催しが行われた。ゲームは至って簡単で、①互いに自己紹介、②じゃんけん、③勝った人が負けた人の顔にシールを貼るといったものであった。そして、手持ちの7つのシールすべてがなくなった人が勝ち抜けとなり、1位から8位までの人には、景品が準備されていた。ゲーム開始と共に、新規留学生も積極的に相手を探し、自己紹介を行っていた。中には、英語で自己紹介をし、その後延々と話し続ける学生もいたが、これも友達の輪を広げる一つのきっかけとなったのではないだろうか。当日、司会進行を務めた宮原さん(3年)は、当時を振り返り、次のように語っていた。「例年のように地域の人々の参加もあり、子供から大人まで活気のあるCアワーになった。ゲームの後のお茶を交えたフリータイムでも、にぎやかに歓談が行われ、来日間もない留学生にとっても多くの友人ができた場ではなかっただろうか。」このように、ゲームを通じて、笑い声の絶えない時間を皆が共有できたことは非常に有意義であったはずである。



## インターナショナルCアワー ～笑い声の絶えない時間

ゲームで友達の輪を広げよう  
ベトナムのお国紹介



11月Cアワー【2010年11月16日(火)】

今月のお題は、「ベトナムのお国紹介」。昨今、アジアの中でも経済発展が著しく、経済面でも日本とのつながりが強いベトナム。本学には現在3名のベトナム人留学生が在籍しており、今回は2年生のハイさん(VU HOANG HAI)とファムさん(PHAM XUANQUYEN)による母国の紹介が行われた。当日は、自作のパワーポイントを使って、ベトナム料理やお正月について、詳しく紹介してくれた。料理に関しては、ベトナム北部、中部、南部により食材や味付けが異なるとのことであった。具体的には、北部の料理は、味付けが全体的に塩辛く、中部は唐辛子を使った辛い味付け、南部はココナッツを使った甘辛く、濃い味付けであるそうである。また、お正月に関しては、中国、韓国と同様に旧正月を祝い、今年は2月2日が大晦日、3日が元日とのことであった。ベトナムでは、正月に村人総出で豚を殺し、その豚肉を皆で分け、台所の目立つところにかけておく習慣があるそうである。また、元日は他人の家への訪問を避けた方がよいとのことであった。その他、紙面では書ききれないほどベトナムの魅力を、クイズを交えながら説明してくれ、市民の方々も興味を持って質問を行っていた。

12月Cアワー【2010年12月17日(金)】

12月といえば、クリスマス。クリスマスといえ  
ば、センター主催の「インターナショナル コン  
サート」。今年も日本人学生をはじめ留学生や市  
民の方々が大勢参加し、盛大に開催された。プロ  
グラムも昨年以上に豊富で、今年は日本人学生の  
ダンスに加え、マレーシア留学生の生バンド(サ  
ザン「真夏の果実」等)、韓国人留学生の歌(尾  
崎豊「I LOVE YOU」)、女子留学生合同のダンス  
(少女時代「gee」)など、それぞれの特技を生  
かしたパフォーマンスが披露された。このうち、  
マレーシア留学生でベースを担当したイッサット  
さんは、「約2週間練習し、途中間違えてしまっ  
たところもあったが、全体的にまあまあ良かった。  
また、来年も参加したい」と話していた。また、  
geeを踊ったメンバーの一人、馬さん(中国)は、  
「練習期間、2週間。毎日夜みんなで練習したり、  
おしゃべりができて楽しかった。当日はちょっと  
緊張したが、皆優しい目で見てくれたので、踊り  
やすかった」と話していた。毎年、留学生の性格  
によりパフォーマンスの質も異なるが、今年是非  
常にまとまりがあり、団結力が強かったように思  
われる。来年3月に帰国する留学生にとっては、  
素晴らしい思い出として胸に焼付いたのではない  
だろうか。



## OFIC主催 バドミントン大会

【2010年12月19日(日) 第一体育館】

冬季休業に入る前の日曜日、国際交流を推進しているサークルOFICが昨年のソフトボール大会に続き、今年バドミントン大会を主催した。大会には、日本人学生と留学生、計22名が参加し、くじ引きでペアを作ったのち、11チームに分かれ、ダブルスの試合が行なわれた。ルールは、リーグ戦形式で、1ゲーム7ポイントの先取をもって勝ちとした。試合では、普段教室では知りえなかった学生たちの運動能力の高さを知ることができ、学生たちの新たな一面をみることができた。特に、中国人留学生の動きがよく、バドミントン人口の多い大国の威厳を見せつけられたような気がした。また、ポーランドの学生は、長身を生かしたプレーで、ポイントを獲得していった。結果は、一位李奥(中国)・宮原ペア、二位慈維君(台湾)・陳華海(中国)ペア、三位はルーカス(ポーランド)・趙金(中国)ペアであった。今回の大会を振り返り、主催者側は、「スポーツを通して日本人と留学生の交流ができ、普段とは異なる雰囲気の中で相互関係が築けたのではないだろうか」と話していた。やはりスポーツには、人と人とを結びつける力が潜んでいるように思われる。



# 国際大学雪像大会 VS トトロ

【2011年1月3日(月)～8日(土)・中国ハルビン】



今年も年明け早々から、中国のハルビン工程大学（本学国際交流協定校）において、「国際大学生雪像大会」が実施された。今年で3回目となる大会には、世界8カ国から全43チームが参加し、本学は、日本から唯一の参加校であった。今大会には、本学国際交流センターから職員1名と学生2名（4年・奥山さん/大学院2年・長澤さん）がエントリーし、-20度の極寒の中、3日間雪像との格闘を繰り返した。当初、雪像ということで容易に形を形成できると思われていたが、実際は氷と同様で、かなりの力作業を要した。そのため、出国前の北見での練習が、実践では生かされなかったものの、3人の努力の成果として、最終日には「トトロ」の雪像を完成するに至った。「トトロ」は中国でもよく知られており、雪像を見た中国の学生からは「これトトロ?」、「トトロって言うよりピカチュウみたいじゃない?」などと声を掛けられていた。「言うは易し、行うは難し。（説(シュオ)起(チー)来(ライ)容(ロン)易(イ)、做(ズオ)起(チー)来(ライ)難(ナン)。)」結果としては、昨年同様「参加賞」を受賞し、目標としていた優勝は逃したものの、大会期間中、中国や各国の人々と交流することができ、良い経験になったようである。

# いざ白銀の世界へ! スキー研修×留学生

【2011年1月7日・ノーザンアークリゾート】



毎年恒例の留学生スキー研修が、新年早々ノーザンアークリゾート（端野）にて実施された。当日は、かなり冷え込んだものの、一日中晴天に恵まれ、50名近くの学生が初滑りを楽しんだ。留学生のほとんどが、本学に来てから初めて雪と触れ合った学生が多く、初めに初心者と経験者の二班に班分けされた。その後、インストラクターからの指導を受けながら、思い思いのままにスキーを楽しんでいた。当初、初心者班は、スキーを片手にゲレンデを歩いて登り、恐る恐る滑っていた。しかし、若さゆえの慣れであろうか。午前中のレッスンが終わるころには皆余裕も出てきて、カメラに笑顔を向ける学生も出てきた。一方、経験者班は、母国での経験や過去のスキー研修で少しずつ慣れた留学生たちが、昼食の時間も惜しんでまで、新雪の滑りを楽しんでいた。こうして、今年のスキー研修も無事に終わることができたものの、翌日多くの留学生が筋肉痛に悩まされたことは言うまでもない。

## 1・2・3月の予定とお知らせ

